

## 1. 略歴

1985年3月	静岡県静岡聖光学院高等学校卒業
1985年4月	東京大学教養学部文科三類入学
1989年3月	同 文学部英語英米文学科専修課程卒業
1989年4月	東京大学大学院人文科学研究科（英語英米文学専攻）入学
1992年3月	同 修士課程修了・修士（文学）
1993年10月	連合王国ケンブリッジ大学大学院博士課程入学（英米文学専攻）
1997年5月	同博士課程修了 博士号取得（文学） タイトル：‘Wallace Stevens and the Aesthetic of Boredom’
1992年4月	東京大学文学部英語英米文学科助手
1993年4月	帝京大学文学部助手
1997年4月	帝京大学文学部専任講師
2001年4月	東京大学大学院人文社会系研究科助教
2007年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

英米文学

### b 研究課題

英語圏の詩や小説の研究を中心とする。個々の作品の緻密な解釈と、作品を作品たらしめる力学の解明に向けた努力を研究の中心としつつ、同時に、「なぜ詩でなければならないか?」「なぜ小説なのか?」という素朴な疑問との取り組みをも課題とする。詩や小説を自足的なジャンルとみなすのではなく、「詩的であること」「小説的であること」を絵画・舞台芸術、スポーツ、インターネット空間などとの関係でとらえることもテーマとする。

### c 概要と自己評価

#### 概要

2014年度から2015年度にかけては、ポライトネスに研究の焦点を移し、詩や小説の語り手が読者とのどのような人間関係を築こうとしているかという疑問を足がかりに、語りの作法構築の問題を考察した。その成果として『善意と悪意の英文学史』がある。また『幼さという戦略』は日本文学を主にとりあげたものだが、英文学研究で得た知見も大いに生かされており、詩や小説の語り手の本来的な「弱さ」や「幼さ」を考察している。

#### 自己評価

ポライトネスへの注目を出発点にした文学研究はまだ一般的にも広がりを見せているとは言えないので、今後は協同研究のような形でネットワークを広げつつ、より広範にわかる対象をとりあげながら理論の洗練をめざしたい。また「凝視」の研究の延長線上として、「共視」や「錯視」「注意散漫」といった類似テーマの研究も引き続き行う予定である。

### d 主要業績

#### (1) 著書

単著、阿部公彦、『名作をいじる 「らくがき」式で読む最初の1ページ』、立東舎、2017.9

その他、平野啓一郎・飯田橋文学会編、『現代作家アーカイブ1 自身の創作活動を語る：古井由吉、高橋源一郎、瀬戸内寂聴』、東京大学出版会、2017.10

単著、阿部公彦、『史上最悪の英語政策——ウソだらけの「4技能」看板』、ひつじ書房、2017.12

#### (2) 論文

阿部公彦、「文体に注意を払って読むとは」、『英語のスタイル』、140-153頁、2017

阿部公彦、「境目に居つづけること — 批評と連詩と大岡信」、『現代詩手帖』、2017年6月号、136-140頁、2017

阿部公彦、「ジェイムズ・ジョイス『ユリシーズ』:小説はものになれるか?: 付録「自称『ワハハ教授』へのインタビュー」」、『文學界』、2017年10月号、49-52頁、2017

阿部公彦、「充実した不可能:『かつらの合っていない女』をめぐって」、『現代詩手帖』、2017年11月号、20-23頁、2017

- 阿部公彦、「ボブ・ディランの拒絶力」、『現代詩手帖』、2017年2月号、75-79頁、2017.2
- 阿部公彦、「英語と生命力—英詩が教える（かもしれない）言葉の運動感覚」、日本英文学会関東支部編『教室の英文学』、48-55頁、2017.5
- 阿部公彦、「ナマ・イシグロの「ナマさ」は？—英語原文をちら見する」、『別冊宝島 カズオ・イシグロ読本—その深淵を暴く』、118-121頁、2017.12

### (3) 書評

- 高樹のぶ子、『オライオン飛行』、講談社、「文學界」、2016年12月号、288-289頁、2016
- 綿矢りさ『手のひらの京』（『新潮』）・朝井リョウ『ままならないから私とあなた』（『文學界』）・牧野真有子『絵姿女房への挨拶』（『群像』）、『群像』、2016.2
- 成井昭人「ゼンマイ」（『すばる』）・宮内悠介「半地下」（『文學界』）・片瀬チヲル、「草の婚約」（『群像』）、『群像』、2016.3
- 李龍徳「報われない人間は永遠に報われない」（『文藝』）、荻世いをら「私のような軀」（『すばる』）、高村薫「移動販売車」（『群像』）、『群像』、2016.4
- 吉田修一、『橋を渡る』、文藝春秋、「週刊現代」、2016年4月9日号、135頁、2016.4
- 後藤大祐、『誰もいない闘牛場にベルが鳴る』、土曜美術社出版販売、「詩と思想」、2016年4月号、23頁、2016.4
- 藤岡啓介、『翻訳者あとがき讃—翻訳文化の舞台裏』、未知谷、「週刊読書人」、2016年4月29日・5月6日合併号、6頁、2016.4
- 平野啓一郎、『マチネの終わりに』、毎日新聞社、「群像」、2016年6月号、288-289頁、2016.6
- 横山茂雄、竹内勝徳、仲谷正史ほか、『神の聖なる天使たち』、『身体と情動』、『触楽入門』、研究社、彩流社、朝日出版社、「週刊読書人」、2016年7月22日、4頁、2016.7
- 川上弘美、『大きな鳥にさらわれないように』、講談社、『すばる』、2016年8月号、312頁、2016.8
- 西村賢太、『蠕動で涉れ、汚泥の川を』、集英社、『週刊現代』、2016年8月6日号、131頁、2016.8
- 津島祐子、『ジャッカ・ドフニ』、集英社、『週刊読書人』、2016年8月12日号、5頁、2016.8
- J.M.クツェー著、鴻巣友季子訳、『イエスの幼子時代』、早川書房、『すばる』、2016年10月号、322頁、2016.10
- 三浦衛、『カメレオン』、春風社、『図書新聞』、2016年10月22日号、4頁、2016.10
- ジェイ・ルービン、『村上春樹と私』、東洋経済新報社、『産経新聞』、2016年12月4日朝刊、2016.12
- 保坂和志、『地鳴き、小鳥みたいな』、講談社、『共同通信』、2016年12月8日配信、2016.12
- 今村夏子、『星の子』、朝日新聞出版、『すばる』、2017年8月号、290-302頁、2017
- クリスチナ・ロセッティ、『ゴ布林・マーケット』、『春風新聞』、2017年秋冬号、8頁、2017
- 柴崎友香、『千の扉』、中央公論新社、『文學界』、2017年12月号、310-311頁、2017
- 佐々木敦、『新しい小説のために』、講談社、『群像』、2017年12月号、262-263頁、2017
- 西村賢太、『芝公園六角堂跡』、文芸春秋、『文學界』、2017年4月号、306-7頁、2017.3
- 綿矢りさ、『私をくいとめて』、朝日新聞出版、『小説トリッパー』、2017年春号、202-203頁、2017.4
- 小林エリカ、『彼女は鏡の中を覗きこむ』、集英社、『すばる』、2017年5月号、313頁、2017.5
- 又吉直樹、『劇場』、新潮社、『共同通信』、2017年5月11日配信、2017.5
- 古井由吉、『ゆらぐ玉の緒』、新潮社、『図書新聞』、2017年5月27日、4頁、2017.5
- 多和田葉子、『百年の散歩』、新潮社、『群像』、2017年6月号、334-335頁、2017.6
- 遠藤不比人、『情動とモダニティ』、彩流社、『週刊読書人』、2017年6月2日号、5頁、2017.8
- 川端康成、『雪国』、『神奈川新聞』、10月15日朝刊、7頁、2017.10

### (4) 解説

- 阿部公彦、「日本語版解説」、ウィリアム・デレズウィッツ、米山裕子訳『優秀なる羊たち：米国エリート教育の失敗に学ぶ』、2016.2
- 阿部公彦、「読書アンケート」、『みすず』、1/2月号、pp.28-29、2017.1
- 阿部公彦、「解説」、西村賢太『下手に居丈高』徳間文庫<徳間書店>、214-21頁、2017.4
- 阿部公彦、「解説—女神たちに魅せられて」、リチャード・ブローティガン、福間健二訳『ブローティガン 東京日記』平凡社ライブラリー、191-99頁、2017.4
- 阿部公彦、「解説：多和田葉子の聖と俗—到来する言葉を待つということ」、多和田葉子『変身のためのオピウム・球形時間』講談社文芸文庫、424-435頁、2017.10
- 阿部公彦、「インタビューを終えて—ことばのなりぎわを聴く」、『現代作家アーカイブ1 自身の創作活動を語る：高橋源一郎、古井由吉、瀬戸内寂聴』、143-145頁、2017.10

(5) 学会発表

- 国内、Masahiko Abe, Steve Clark, Laurence Williams, Noriyuki Harada, Alex Watson, Kazuyoshi Oishi, chaired by Neil Addison, 'Panel Symposium on Academic Career Development', The 7th Annual Liberlit Conference for Discussion and Defense of the Role of 'Literary' Texts in the English Curriculum, Tokyo Woman's Christian University, 2016.2.22
- 国内、阿部公彦、「中国詩人との交流シンポジウム — 詩歌と世界」、中国詩人との交流シンポジウム — 詩歌と世界、東京大学本郷キャンパス・文学部3号館5階英文辞書室、2017.1.23
- 国内、阿部公彦、「Demystifying Academic Pathways: Symposium on Career Development', The 8th Annual Liberlit Conference: Demystifying without Diminishing the Literary Text, 東京女子大学、2017.2.20
- 国内、阿部公彦、「楽しくて危険な文学の魅力」、SEKAI、2017.3.7
- 国内、阿部公彦、「文学インタビュー第10回 黒井千次」、東京大学新図書館トークイベント EXTRA 公開収録、東京大学文学部・法文一号館115教室、2017.3.8
- 国内、阿部公彦、「漱石作品とおなかの具合」、日本近代文学学会、東京外国語大学、2017.5.28

(6) 啓蒙

- 阿部公彦、「詩とことば 1月」、『読売新聞』、2016.1
- 阿部公彦、「『英語教育』という幻想」、『UP』、2016.1
- 阿部公彦、「詩とことば 2月」、『読売新聞』、2016.2
- 阿部公彦、「詩とことば 3月」、『読売新聞』、2016.3

阿部公彦、「私にとっての名訳と訳者の工夫・こだわり」、『文芸翻訳入門——言葉を紡ぎ直す人たち、世界を紡ぎ直す言葉たち』、pp.88-95、2017.3

阿部公彦、「作家と胃弱」、『図書』、pp.20-23、2017.7

(7) マスコミ

- 「詩とことば」(詩季評)、『読売新聞』1月17日朝刊 p.12、2017.1.17
- 「インタビュー」:「英語をたどって4 「紙上ディベート 入試改革」、『朝日新聞』、2017年6月16日夕刊、2面、2017.6.16
- 「詩とことば 夏」(詩季評)、『読売新聞』7月11日 p.13、2017.7.11
- 「アンケート 2017年上半期の収穫から」、『週刊読書人』 p.5、2017.7.21
- 創作合評:栗田有起「毛婚」、鴻池留依「ナイス・エイジ」、乗代雄介「未熟な同感者」(合評者:島田雅彦、倉本さおり)、『群像』2017年8月号、p.290-302、2017.8
- 創作合評:水原涼「クイーンズ・ロード・フィールド」、小林里々子「私の子ども」、加藤秀行「海亀たち」(合評者:島田雅彦、倉本さおり)、『群像』2017年9月号、p.292-304、2017.9
- 創作合評:町田康「湖畔の愛」、木村紅美「雪子さんの足音」、三輪太郎「その八重垣を」(合評者:島田雅彦、倉本さおり)、『群像』2017年10月号、p.320-334、2017.10
- 「イングリコについてコメント「共同通信」配信」、『毎日新聞』『西日本新聞』、2017.10.5
- 「詩とことば 秋」(詩季評)、『読売新聞』10月17日朝刊、2017.10.17
- インタビュー:『名作をいじる』:まずは最初の一ページ、『赤旗日曜版』p.29、2017.11.19
- インタビュー:『文研』1985/2017、『駒場文学特別号』p.40-44、2017.11.23
- 「純文学 今年の収穫」、『共同通信』、2017.12

3. 主な社会活動

(1) 学会

- 国内、日本英文学会 理事 2017.5~
- 国内、日本英文学会関東支部 支部長 2017.4~
- 国内、日本アメリカ学会英文号編集委員 2016.8

(2) 社会活動

- 朝日カルチャーセンター講師 2016.8~2018.6
- 集中講義 関西学院大学 2017.8、聖心女子大学 2016.8、2017.8